

「北陸電力環境報告書 2004」の発行について

平成16年6月21日
北陸電力株式会社

当社では、「北陸電力21世紀環境憲章」に基づき、環境に対する取組課題とその中期目標等を定めた「環境管理計画」を策定し、地球温暖化防止対策の推進、循環型社会形成に向けた3Rの推進など、さまざまな取組みを進めています。

このたび、2004年度の環境管理計画および2003年度の環境保全活動実績などを取りまとめた「北陸電力環境報告書2004」を発行いたしました。この報告書は、1994年に「環境アニュアルレポート」として創刊して以来、毎年発行しており、今年で11回目となります。

「北陸電力環境報告書2004」の概要（詳細は別紙を参照してください）

- 1．2004年度環境管理計画の概要
- 2．報告書の特徴
- 3．2003年度の主な取組み

以上

「北陸電力環境報告書2004」の概要

1. 2004年度環境管理計画の概要

今年度の環境管理計画は、昨今の社会情勢を踏まえ、更に地球温暖化防止、循環型社会形成に向けた取組みなどを強化するため、新たに5施策を追加するとともに、既に目標を達成した取組み課題等については削除し、39項目としました。

また、当社の環境への取組みに対する透明性、信頼性の向上を図るため、昨年度実績については、取組課題毎に評価コメントを掲載いたしました。

【主な環境管理計画項目】

主な取組課題	施策	目 標	
		2004年度	2005年度
地球温暖化防止対策の推進			
CO2の排出抑制	CO2排出原単位の抑制	0.435kg-CO2 / kWh	0.361kg-CO2 / kWh (2010年度目標：0.33kg-CO2 / kWh程度)
	原子力発電比率の向上	20%	32%
	火力発電所熱効率の向上	39%以上	39%以上
新エネルギー普及支援の推進	R P Sへの対応	0.9億kWh	1.0億kWh (2010年度目標：3.7億kWh)
省エネルギーの推進	お客さまへの省エネコンサルティングの強化	860件 / 年	継続実施
	自社ビル電力使用量の抑制	1995年度比21%減	1995年度比22%減
京都メカニズム活用に向けた取組み	京都メカニズム活用に向けての検討	自主目標達成のための調査・検討	継続実施
	豪州におけるアルカリ・塩化土壌改良による植林研究	継続実施	継続実施
環境保全対策の推進			
火力発電所の環境保全対策	SO _x 排出原単位の抑制	0.3g/kWh程度	0.3g/kWh程度
	NO _x 排出原単位の抑制	0.3g/kWh程度	0.3g/kWh程度
景観への配慮	周辺環境に調和した設備形成	取組みの推進	継続実施
志賀原子力発電所周辺の線量評価値		0.001mSv/年未満	0.001mSv/年未満
循環型社会形成に向けた事業活動の推進			
資源リサイクルなど3Rの推進	廃棄物の最終処分量の低減(石炭灰を除く)	0.5万t以下	0.5万t以下
	オフィスごみゼロの推進	本店ビル内ごみ最終処分率4%	順次全社展開
環境管理の徹底			
環境会計の実施		継続実施	継続実施
E M Sの維持及び継続的改善の推進		継続実施	継続実施
北陸電力グループワイドでの環境管理の展開		環境負荷データの把握	継続実施

新規項目

2. 報告書の特徴

今回の報告書は、より多くの方々に当社の環境問題への取組み姿勢や企業活動に対するご理解が得られるよう工夫しております。また、よりわかりやすくご覧いただくため、最新情報と2003年度のトピックスや取組み実績を中心に「ダイジェスト版」として取りまとめ発行しています。

当社の環境への取組みを重点的に、CSR(企業の社会責任)の観点から経済的側面、社会的側面についても記載しております。

より広くお客さまにご理解いただけるよう、業務内容や装置の仕組みなどができる限りフロー図等で表現しております。また、数値や推移をグラフや表で

示すとともに、世界各国との比較も行っております。

なお、読者の皆さまに読みやすく、親しみをもっていただけるようなデザインや構成といたしました。

3. 2003年度の主な取組み

(1) 地球温暖化防止対策の推進

CO₂排出量を抑制するため、原子力発電の開発、火力発電所熱効率の向上、省エネルギーの推進および新エネルギーの導入などに積極的に取り組んでおります。

2003年度の販売電力量に対するCO₂排出量は1,184万tで、販売電力量当たりの原単位は0.462kg-CO₂となりました。志賀原子力発電所の定期検査期間の延長に伴い、火力発電による電力量が当初の想定より増加したため、2002年度実績(0.394kg-CO₂/kWh)を上回る結果となりました。

しかしながら、仮に全てを火力で発電した場合のCO₂排出量は1,973万tとなることから、原子力発電や水力発電などの非化石エネルギー利用により、CO₂排出量を約40%抑制したことになります。

(2) 環境保全対策の推進

発電所では、地域の環境を保全するため、大気・水質・騒音などさまざまな環境対策について積極的に取り組んでおります。

また、志賀原子力発電所2号機の建設工事においても、「原子力発電所という人工物をこの豊かな自然環境にいかにか調和させるか」という技術的課題に対しさまざまな工夫を施しながら着実に建設を進めています。

(3) 3Rの積極的な推進

2003年度の産業廃棄物等の発生量は約82万t、有効利用率は92.3%にとどまりました。

これは、志賀原子力発電所1号機の定期検査延長により、石炭火力発電所の利用率が高まった結果、想定外の石炭灰が発生し、その一部を自社処分場に埋め立てたためです。

循環型社会の形成に向け、発生量の抑制(リデュース)を第一とし、再使用(リユース)および再資源化(リサイクル)の3Rを積極的に推進していきます。

なお、2004年4月から「オフィスごみゼロの推進」活動を開始し、順次全社展開していくこととしています。

(4) 社会貢献活動

地域での清掃活動や、自治体等が主催する環境イベントへの出展、学校や地域の出前広報など、地域の皆さまと一体となった環境活動を展開しました。

(5) その他

社員の環境意識向上とお客さまの省エネ支援のツールとして環境家計簿をつくりホームページに掲載いたしました。みなさんのご家庭から月々どれくらいのコ₂が排出されているかを計算できるようにするとともに、省エネ機器などについてもご紹介しています。

当社の環境保全にかかるコストなどを集約した環境会計を本報告書に掲載しております。

以 上